



8月2日(土)・3日(日)、古利根川河畔にて「第30回古利根川流灯まつり」が開催されました。
日本一の大きさを誇る灯ろう約250基が並ぶさまは、まるで地上に降りた天の川。
今年は「流れる願いではなく」とどまる灯り」をコンセプトに、遊覧船や人力車の運行、ステージ発表などが行われました。川面に映る美しい光の帯、そしてまつりで体験したすべての出来事は、心に残るひと夏の思い出となったことでしょう。
図 産業振興課
商工観光担当 内線305

流れる願いではなく とどまる灯り



～流れる願いではなく とどまる灯り～
時は昭和のはじめ、杉戸町と宮代町の人々は元気をなくした商店街をもう一度賑やかにしたいと考えていました。
「川に大きな灯ろうを浮かべてみては。流すのではなく、まちの灯りとして、そこに『とどめる』んです」とある日、一人の若い商人が言いました。
灯ろうは「願いを流すもの」ではなく、「想いをとどめて照らすもの」となったのです。
流れていかない消えていかない「とどまり、寄り添い続ける光」・・・その光は、時を超えて毎年夏の夜にともる。
おたがいのまちと人々を照らし続けるために・・・

古利根川流灯まつり PHOTO REPORT



大人気の遊覧船
船の上で風を感じながら、幻想的な光の帯を間近で見る事ができる。



今年も行われた人力車の運行
多くの人が利用し、中には海外から来た人も。

ステージ発表



流灯ふれあい館前にて歌や踊りなどが披露され、多くの人を楽しませてくれました。

今回は、灯ろうの写真入り「うちわ」も作成。来場者へ配布しました。



話題 TOPICS

道路・川辺・広場に大集合！

8月1日(金)、東武動物公園駅東口通り線周辺にて、「マチナカリビンテージ流灯前夜祭」を開催しました。公共空間を活用し、杉戸・宮代の魅力をぎゅっと詰め込んだ、産学官で共創する手作りのお祭り。
今回は杉戸高等学校の生徒も参加し、SDGsの視点から地域課題を見つけ解決策の検討と実践を目指す授業「総合的な探究の時間」を活かしてまちづくりにデビューしました。
市街地整備推進室



話題 TOPICS

友情が深まった暑い1日

7月30日(水)、今年も係留作業に友好都市福島県富岡町の職員5名が参加してくれました。
記録的な猛暑の中、朝5時に富岡町を出発し、最後まで一緒に汗を流し、約250基の灯ろうに係留していただきました。
参加した職員は、「やりきる気持ちで頑張りました」、「大変だったけど、杉戸町の皆さんとの作業は楽しかった」と話し、明かりの灯った大型灯ろうに感動されていました。
住民協働課

